

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

学校法人青森田中学園
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人青森田中学園 青森中央経理専門学校並びに青森中央文化専門学校は
令和7年度第2回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので報告致します。

●開催日

令和8年 3月 11日（水） 13：30～14：40

●開催場所

本学園9号館（学術交流会館）3階 934教室

●企業等委員

樽澤 康太 氏 （株式会社ティエル・マネジメント／青森中央経理専門学校卒業生）
今 順司 氏 （青森県アパレル工業会・株式会社蓬田紳装 取締役工場長）
泉谷 里奈 氏 （株式会社アプティマルワ／青森中央文化専門学校卒業生）
今 勉 氏 （青森市横内町会 町会長）

●学校側

石田 憲久 （学校法人青森田中学園 理事長、
青森中央経理専門学校 校長、青森中央文化専門学校 校長）
櫻庭 肇 （学校法人青森田中学園 法人本部長）
石田 壮平 （学校法人青森田中学園 事務局長）
鈴木 伸吾 （青森中央経理専門学校 主任教諭）
大水 咲良 （青森中央文化専門学校 主任教諭）
塚本 大広 （青森中央経理専門学校 教諭）
佐藤 紋子 （青森中央経理専門学校 教諭）
竹洞 春佳 （青森中央文化専門学校 教諭）
久慈 雅世 （青森中央文化専門学校 教諭）

●次第

1. 開会あいさつ

学校法人青森田中学園理事長

青森中央経理専門学校校長

青森中央文化専門学校校長 石田 憲久

2. 出席者（委員）紹介

→資料に基づき、出席者を紹介

3. 規定・位置づけ

→資料に基づき、規定・位置づけを確認

4. 令和年度重点目標の状況報告

→委員の皆様から資料に基づき、質問・意見等を頂く

委員からの質問・意見等	質問・意見等に対する回答
単位制に移行することでのメリットはあるのか？	大学・専門学校間の授業連携が取り易くなる点がある。
定員割れの状況であるが、学校運営は成り立つか？	少人数制を活かした綿密な教育が提供できることを売りにして、入学生増加に繋げたい。
単位制以降に伴い専門学生が大学の授業を履修することで、専門学校教員の業務負担が軽減されるのであれば、積極的に取り組むべき。また、光熱費の節約についても取り組むべきではないか。	現状一部の科目で大学の授業に専門学生が参加しているが、今後より連携を強めていきたい。大学との連携について、大学生が専門学校の科目を履修するケースも考えられる。経営を学ぶ大学生がアパレルも学びアパレル業界で活躍できるような環境整備に努めたい。
県内の縫製業は全体的に人手不足であるため、青森中央文化専門学校の県内就職の少なさが気になる。	今年度は1月から2月にかけて実習を設けたが、次年度以降は2年生の就職活動が盛んな時期に実習を設け、県内縫製業の魅力を学生に実感してもらうことで、県内就職を増やして参りたい。
ファッションに自己表現は欠かせない部分であるため、国籍やジェンダーについて自分を隠さず表現できる環境の整備をして欲しい。	留学生について来年度初めての受け入れとなるため、学生本人の期待に沿うことができるよう、学園各課と連携しながら進めて参りたい。ジェンダーフリーの取り組みについて、多様性を大切に、入学後の生活が想像しやすい環境整備を進めたい。

ハイブリッド授業について詳しく聞かせてください。	大雪の影響で電車バスの運休が相次ぎ、それによって通学手段を確保できない学生が多数いたため、休講やリモート参加が可能な授業に関してはハイブリッド授業とすることで対応した。
来年度新入生についてどんな印象を持っているか。	青森中央文化専門学校について、ここ数年アパレル専攻学生の増加がみられる。手を動かすことが好きな学生が多くなっている印象。また男女比について、男子学生の入学が増えてきている印象がある。 青森中央経理専門学校について、高校で学んだ内容に自信があり、更に学びを深めたいという意欲を持った方が入学してきている傾向がみられる。

5. 令和7年度第1回学校関係者評価委員会からの課題等に対する取り組み状況報告

→委員の皆様から資料に基づき、質問・意見等を頂く

委員からの質問・意見等	質問・意見等に対する回答
学校側から提供できる「同窓会」があれば、卒業生とのつながりの維持、その後の進路（転職などを含む）確認、社会人生活についての情報共有ができれば、今後の学校運営にも役立つと思います。オンラインにて同窓会的なことをすでに出来ているのは、本当に素晴らしいです。	対面での同窓会は開催をしていないが、メッセージアプリを利用して、教職員も交えて近況報告を行うなどしている。卒業後の動向の把握もできている。
SNSにて若い世代にPRしておくことが、その後の学生募集にもつながってくると思いますので、できる範囲内で在校生の皆さんがイキイキと活動している姿をPRして欲しいです。	現在は主にInstagramを活用し、実際にSNSを使用して情報発信をすることで、地元高校生に本校の情報を伝えることができていると感じている。
ご指導されている先生方も、最新の情報やトレンドをできるだけ取り入れながら、専門学校だからこそ出来る指導、学生さんに「学べて良かった」と思ってもらえるようにブラッシュアップして欲しいと思います。	各先生方が受け持っている科目に関係する研修等に積極的に参加し、学生に還元できるように引き続き行っていく。

最新機器の導入は新鮮な環境として、学生たちの取り組みも意欲的になるのではないかと考えます。	学生が学ぶために必要な機器の導入は、必要不可欠なことと考える。費用対効果などの観点も含めて、必要な機器の導入には積極的に取り組んでいく。
パソコン講座の実施、公開講座の実施により、準備・運営を通じて、社会人との接点が保たれている点に好感を持ちます。公開講座では、学生から講師に必ず質問を投げかける仕組みを作ることで、コミュニケーションとさらなる理解につながると考えます。	学生から講師に質問を投げかけるという視点は大事な視点と捉え、一人でも学生が質問を投げかけられるような仕組みづくりに取り組んでいく。

6. 来年度の委員（案）

→資料に基づき、来年度の委員（案）について説明

7. 来年度の日程（案）

→資料に基づき、来年度の日程（案）について説明

8. 閉会挨拶

学校法人青森田中学園法人本部長 櫻庭 肇

以上をもって、終了した。